

平成25年度第2回群馬県慢性腎臓病対策推進協議会議事概要

○日時：平成25年12月17日（火）19時～20時30分

○場所：県庁舎29階 294会議室

○出席者：群馬県慢性腎臓病対策推進協議会委員 12名

事務局 保健予防課長ほか6名

欠席者：1名

傍聴人：1名

○配付資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・協議事項1、2、3
- ・資料1：県ホームページ
- ・資料2：市民公開講座開催状況
- ・資料3：ステージ別慢性腎臓病対策
- ・資料4：市町村の健診におけるクレアチニン検査導入状況
- ・資料5：CKDシールについて

1. 開会

2. あいさつ

群馬県健康福祉部保健予防課長

群馬県慢性腎臓病対策推進協議会会長

3. 協議事項

①慢性腎臓病に関する普及啓発について

事務局より、県ホームページ及び市民公開講座開催予定について、資料1、2により説明した

(概要)

- ・前回協議会で議題にあがっていた、ホームページを作成し掲載した。
今後、随時協議会の開催状況について掲載・更新するとともに、医療機関の名簿や前回紹介いただいた、「CKD e-ラーニング」については、掲載ページにリンクする形をとっていきたい。
- ・今年度の一般向け公開講座の予定について説明。昨年度同様、群馬大学と共催にて実施予定である。

(意見)

○県のホームページについて

- ・県のホームページの中にあるので、公共的な要素が強いということもある。内容も、なるべく客観性に富んだデータをしっかり載せていければよいのでは、と考えている。

- ・患者さんが、より自分のこととして考えやすい、例えばクレアチニン値と年齢を入れると **eGFR** が出る等表示できるとよい。
→日本慢性腎臓病対策協議会のホームページへリンクできるようになっている。
- ・一般の方に「慢性腎臓病」というのは、言葉が難しいのではないか。モチベーションが高い、知識を求めている人にはよいと思うが、より多くの人に受診を促したり、腎臓病にならないようにしたりするための啓発活動という面では、もっと一般の人にわかりやすい表現の方がよい。名前も慢性腎臓病という言葉が難しく、何を意味しているかよくわからないのではないか。
- ・もう少しイラストなどを入れて、やわらかい日本語にして、注意をひく、見てもらえるようなものがよいのではないか。「じんぞうが悪いと言われたら・・・」等
- ・病名からではなくて、症状から、「健康診断結果でタンパク尿が陽性と言われたら」「最近顔がむくむ」「足がむくむ」等、そういう方面からイラストなどを入れていくとよいのではないか。
- ・県はこういうことに取り組んでいます、というアピールのように思える。一般の方に、腎臓や腎不全に関心を持ってもらう内容にした方がよい。
- ・県で行っていることをしっかりアピールすること、患者さん向けに必要。今回のホームページは急いで作ったので、来年度、もう少し患者さんが理解しやすいような部分も取り入れられるようにしていきたい。
- ・Q & A的な内容、一般的な質問、例えば尿タンパクや血圧とかの説明があるとよい。
- ・Q & Aで、「タンパク尿が出たらこういうことが考えられます」「受診するのだったらどういう病院があります」「専門の医師(医療機関)リスト」とリンクさせていけば、タンパク尿が出たら、専門の病院がわかる流れになり、わかりやすいのではないか。

②保健・医療従事者研修会について

事務局より、今年度の研修案について説明

(概要)

- ・医療従事者向け研修は、県薬剤師会に協力いただき、薬剤師向けに実施予定。
- ・保健従事者向け研修は、主に市町村や特定保健指導実施機関の保健師や栄養士を対象に、CKDの保健指導について実施予定。

(意見等)

- ・健診でクレアチニン検査はしているが、**eGFR** 値など各ステージにおいて、どう対応していったらよいか、保健指導の実際を少し具体的に教えていただければありがたい。
- ・保健師は、医療に受診されない人の所に訪問することもある。医療が必要なのに受けていない人に対して、受診につなげるための支援を行っている。実際に医療を受けている患者さんの話を聞く機会があると、日々の活動に活かせると思う。
- ・透析をしている方だと、色々な辛い思いなどもある。御自分のことをふり返って、どのような注意をしたら良いのかなどを、お話ししていただけたらと思う。
- ・「透析を始めるということは、こういうことなのだ」ということをお話しするのもよいのではないか。

看護学生の実習でも透析室は行かなかったりするので、透析に入られてどういう辛い思いをするのかということをご存知ない医療者の方もいるのかなと思う。

- ・医師においても、**eGFR** とか低い患者に対して、腎機能低下時に減量が必要な薬が常用量で処方してしまう場合も結構あるので、薬剤師さんからのフィードバックは、とても重要だと思う。そのため、薬剤師向けの研修は非常に重要と考える。薬剤師さんの方でのダブルチェックという形で、患者さんの不利益にならないようにやっていくのが一番よいのかなと思う。そのために薬剤師向けの研修は意味のあるものと思う。

③保健医療連携体制の構築について

腎機能のステージ別の対策について説明

医療機関の連携体制として、第7次保健医療計画策定に向けた進捗状況の報告

医薬連携に向けた **CKD** シールを活用した取組案について説明

(概要)

- ・基盤整備・環境づくりとして、「協議会の設置」や「サポートする社会環境づくり」「保健医療従事者の資質向上」がある。
- ・健康な方も含めた県民全体への対策として「生活習慣病予防などの健康づくり対策」と、「**CKD** の普及啓発」、「早期発見のための健診の推進」対策が必要。
- ・ハイリスク群では、「早い段階でのかかりつけ医への受診勧奨」、「日常生活の保健指導」など、発症予防対策が必要。
- ・「腎機能低下を早期に発見」「かかりつけ医と専門医の病診連携による進行防止対策」、ステージが進んだ方への「合併症の早期発見や進行防止」など、重症化予防と適正管理に向けた対策などが必要。
- ・体制整備の1つとして、医療機関の連携と健診などの体制整備などがある
- ・前回の協議会で議題にあったお薬手帳等を活用した連携として、**CKD** シールを活用した取組案について提示。

(意見)

○**CKD** シールについて

- ・基本的に腎臓専門医が診ている人については、自分の患者さんが **CKD** であることをわかっている。そうした方が他の疾患で、整形外科や皮膚科などの医療機関を受診されたときに、色々お薬もらうことがあって、そのときに院外薬局とかで、薬が問題ないかチェックされるようなことができればよいと思っている。
- ・**CKD** シールは、腎ステージ欄に **5D**(透析をしている方)も入れた方がよい。
- ・腎ステージを、専門以外の一般医師が理解できるかどうか。逆に混乱しないか。
- ・啓発のためであれば、腎ステージも入れて実施し、後で各方面の人に意見を聞いて、改善していけばよいのではないか。
- ・患者さんにも、「今このステージですよ」と、啓発的な意味合いもあるし、シールを提供するためには、専門医にとっても、きちんと説明しなければならない。説明してシールを貼るから、患者教育にもなるかな、という気もする。

- ・今回新たに腎臓専門の先生が取組み始めるので、それにリンクする形で、かかりつけ医の先生方にも、もう一度 **CKD** について、広報していった方がよい。
患者さんだけわかっていて、かかりつけ医が知らないと困る。お互いにわかるとよりよいことになるので、進めるにあたって、医師会も協力するので、ぜひ県下で皆がわかるようにしていただくとありがたい。
- ・シールを作るのはコストがかかる。お薬手帳の次の改定時には、あらかじめそういう項目も入れられるとよい。
- ・貼る場所や、更新時期は決めた方がよい。

○CKD の啓発用ロゴマーク及び啓発活動について

- ・A案がよい。
- ・日本語(ひらがな)が入るとよい。
- ・慢性腎臓病の話の時に、「透析」という言葉もどこかに入れた方がよいのではないかと。「透析を予防する」という目的がやっぱり大きなテーマだと思うので、「慢性腎臓病が透析の原因になる」、「慢性腎臓病をきちんと治療する事によって透析を予防しなければならない」ということを啓発しなければならないのではないかと。
- ・以前、新潟に比べて、群馬の透析患者が増えているという話があったが、糖尿病の治療ランキングというのがあり、それによると群馬は低い。糖尿病対策とリンクしていく必要もあるのではないかと。

4. 閉会